

今週の為替相場見通し(2023年1月16日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		127.46 ~ 132.87	127.86	125.00 ~ 131.00
ユーロ	(ドル)		1.0640 ~ 1.0868	1.0834	1.0650 ~ 1.1050
(1ユーロ=)	(円)		138.02 ~ 142.84	138.44	136.00 ~ 141.00
英ポンド	(ドル)		1.2089 ~ 1.2249	1.2234	1.2100 ~ 1.2380
(1英ポンド=)	(円)	*	155.65 ~ 161.24	156.37	152.00 ~ 159.00
豪ドル	(ドル)		0.6860 ~ 0.6994	0.6975	0.6900 ~ 0.7050
(1豪ドル=)	(円)	*	88.66 ~ 91.82	89.22	88.50 ~ 90.20

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 山岸 寛昭

(1)今週の予想レンジ: 125.00 ~ 131.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

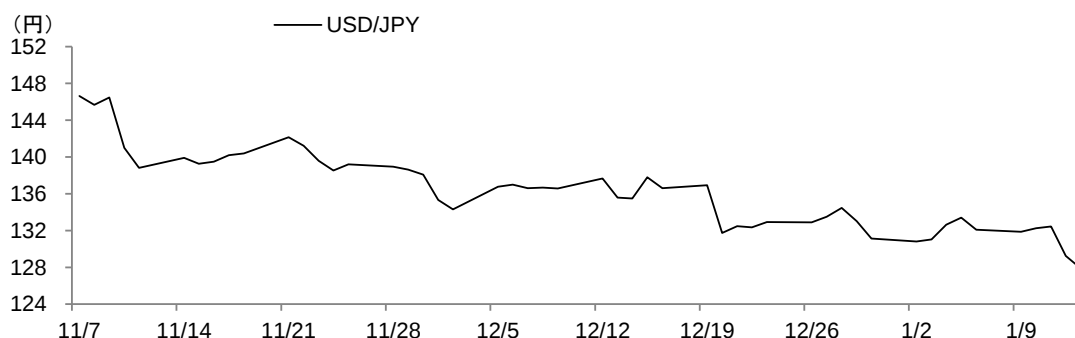
先週のドル/円相場は、週後半に下落する展開。週初9日、ドル/円は米12月雇用統計における賃金減速が意識され131円台に下落。10日、材料難の中、131円台後半でのレンジ推移となった。11日、翌日に米12月消費者物価指数(CPI)の発表を控える中、じりじりと値を上げて一時週高値となる132.87円を記録したが、米10年債入札の良好な結果を受けた米金利低下を背景に上値は押さえられた。12日、ドル/円は日銀が大規模緩和の副作用点検を行うとのヘッドラインを受けて131円台前半に下落。海外時間は、米12月CPIが市場予想と一致しインフレ減速が意識されたことに加え、ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁が次回のFOMCにおける利上げ幅に関し、+25bpが適切と述べたことを受け米金利低下したことで、128.85円まで下落。13日、日銀による金融政策修正観測に加え、米1月ミシガン大学消費者消費マインド(速報)の1年先インフレ期待が市場予想を下回ったことで、ドル/円は一時週安値となる127.46円まで下落し、127.86円で越週した。

今週のドル/円相場は軟調な展開を予想。昨年10月の高値151円台からドル/円は明確な下落トレンドを形成しており、米利上げ停止・日銀の金融政策修正観測を背景に、目先下落リスクが高そう。米国では利上げペースが減速。金利先物織込みでは、2月・3月FOMCにて+25bpずつ利上げで打ち止めとの見方が優勢になっており、米金利先高観後退がドル売り材料となりやすい。また本邦金融政策については、今週18日(水)の日銀金融政策決定会合が注目される。本邦10年債利回りは13日(金)に上限の0.50%を突破。日銀総裁交代を控えていることや政府との共同声明見直し報道が市場の思惑を強めており、今回変動幅再拡大やイールドカーブ・コントロール撤廃などの政策修正が発表された場合、円高が一段と進む可能性も。ドル/円はチャート上で明確な下落トレンドが形成されるなか、次のターゲットは昨年5月に付けた126.37円が意識される。一方でドル売り一巡後は、ドル円が反発する展開にも警戒。米インフレはピークアウトするも、米CPIは前年比6%台の上昇で目標の2%に程遠く、利上げが思いのほか長引く可能性あり。今月発表された米12月雇用統計での堅調な雇用者増加・低失業率の状況からは、人手不足による賃金上昇が容易には収束しそうにない。また円の需給を見ると、本邦貿易赤字は原油価格下落で改善傾向とはいえ、以前過去最大規模に変わりなく、日米の絶対的な金利差も手伝って円売りドル買い需要がドルの下値をサポートしそうだ。ドル/円は先週後半の2日間で5円弱下落、下落のスピードが速く、足許の動きが一巡した後は、反発する可能性にも留意しておきたい。

(3)先週末までの相場の推移

先週(1/9~1/13)の値動き:

安値 127.46 円 高値 132.87 円 終値 127.86 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 甲斐 貴之

(1) 今週の予想レンジ: 1.0650 ~ 1.1050 136.00 ~ 141.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、米物価指標の減速を受け上昇した。週初9日、前週末からのドル売りに加え、米金利低下を受け1.07台半ばまで上昇した。10日、ユーロ/ドルは、材料難の中1.07台前半から半ばにおける狭いレンジでの推移となった。11日、ユーロ/ドルはレーン・フィンランド中銀総裁のタカ派な発言を受け1.07台後半に上昇も、今後のECB政策理事会でハト派メンバーが利上げペース減速を議論するとの憶測から更なる上値追いには至らなかった。12日、ユーロ/ドルは1.07台後半でじり高推移。NY時間には、米12月消費者物価指数(CPI)の結果を受け米金利低下とともに1.08台後半に上昇。1.08台は2022年4月以来約9か月ぶりの高水準。13日のユーロ/ドルは、ドル売りが一服し、1.08台半ばで推移となった。欧州時間では一時1.0781まで下落するも、その後下げ幅を縮め、1.0834で越週した。

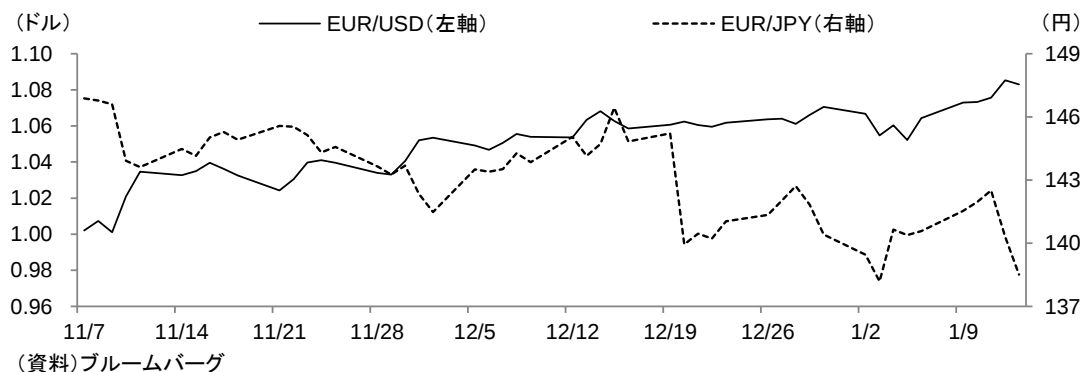
今週のユーロ/ドル相場は引き続きユーロ高地合いの継続を予想する。年初から米金利の低下が継続しているが、米12月CPIが市場予想通りに減速していることが確認され、次回FOMCでの利上げペース鈍化が濃厚となった中では、トレンドは反転しにくい状況が続くそう。また、19日(木)に発表予定のユーロ圏11月ECB経常収支が黒字転するかには注目したい。前回10月経常収支が▲4億ユーロと8月につけた過去最大の赤字幅▲269億ユーロから大きく改善してきており、6月以来となる黒字に転じた場合にはユーロ高が一段進展する可能性もありそう。今週は17日(火)に独12月CPI(確報)、独1月ZEW景気期待指数、18日(水)ユーロ圏12月消費者物価指数(確報)、19(木)にユーロ圏11月ECB経常収支が発表予定となっている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/9~1/13)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0640 高値 1.0868 終値 1.0834

(対円) 安値 138.02 高値 142.84 終値 138.44



3. 英ポンド

欧州資金部 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2380 152.00 ~ 159.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルでは上昇した一方、対円、対ユーロでは下落し、主要通貨の中では総じて軟調推移。週初9日、対ドルで1.21ちょうど、対円で159円台半ば、対ユーロで0.88ちょうどレベルでオープン。前週末米12月雇用統計、米12月ISM非製造業景気指数を受けた流れが続き、株高、米金利低下、ドル売り優勢となる中で英ポンドは対ドルで1.22超えまでじり高、対円ではクロス円の上昇に161円超えまで上昇。同日、BOEビルチーフエコノミストは、英国の労働市場が軟化し経済がリセッションに向かう中でインフレ圧力が低下しつつある可能性を示唆する一方、労働市場の逼迫からインフレ圧力が持続するリスクを指摘したが、相場の反応は限定的。翌10日、パウエルFRB議長の講演を前に、タカ派警戒感からドル買い地合いとなり英ポンドは1.21ちょうどレベルまで下落したが、実際には金融政策に関する具体的な言及なく、株買い、債券買いとなり英ポンドも対ドルでの下げ幅を帳消し。11日は翌日に米12月消費者物価指数(CPI)を控え様子見姿勢が強まるも、英国債の上昇が強く、EUR/GBPが0.8880超えまで続伸する中对ドルでも1.21ちょうどレベルまで下落。12日、注目の米12月CPIはコンセンサス通りの結果。英ポンドはこのタイミングで週安値となる1.2089を示現するも、即座に切り返し1.22台半ばまで上昇の乱高下。その後ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁の+25bp利上げが適切との発言もあり米金利低下基調が鮮明となる中、日銀政策修正観測を受けた円買いが主導する形でドル全面安の展開に英ポンドも対ドルでは1.22台での推移。一方で、他通貨対比では上値重く、EUR/GBPは翌アジア時間にかけて0.8897の週高値まで続伸、対円では翌ロンドン時間に155円台半ばまで5円超の大幅下落。13日ロンドン時間早朝に発表された英11月GDPは予想を上回る内容となり、市場が予想する年後半のリセッション確率を下げる内容となった。同日再度ドル売り地合いが強まる中、英ポンドは対ドルで週高値となる1.2249を示現。米祝日を前にポジション調整が強まり1.21台半ばまで下落する場面も見られたが、最終的には1.2230レベルの高値圏で越週。

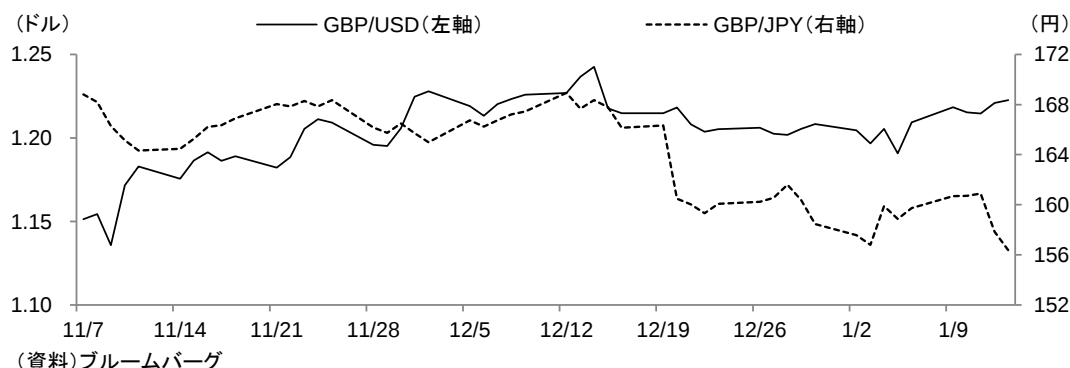
今週の英ポンド相場、対ドルでは底堅いものの、他通貨では上値の重い展開を予想。先週、英ポンドは対ドルで約1か月ぶりとなる高値まで上昇したものの、これは次回FOMCでの+25bp利上げを織り込みに行く中でのドル全面安の結果であり、他通貨対比では総じて軟調推移。英金利は他通貨対比大きくアウトパフォーム(金利低下)しており、OIS市場が織り込むBOEのターミナルレートは4.5%を割り込むレベルまで低下。昨年12月のレベルと比べると25bp程度の低下となっており、年内の利上げ織り込みも累計+95bpまで低下している。2月+50bp、3月+25bpの利上げ織り込みはまだ残るものの、ターミナルレートの織り込みにはさらなる剥落余地があるのがマーケットの太宗の見方であり、英ポンドが対主要通貨対比弱含む展開は当面続くだろう。特に、2回の+50bp利上げが予想されているECBや政策修正観測が根強い日銀とのコントラストは鮮明であり、テクニカルにもクロスでの下抜けが意識される。今週は、16日(月)ベイリーBOE総裁の議会証言、17日(火)英11月雇用統計、18日(水)英12月CPI、20日(金)英12月小売売上高が予定され、英国からのイベントが相次ぐ。先週はBOE高官から追加利上げに前向きなコメントが相次いでおり、市場の反応は限定的であったものの、市場の利上げ織り込みも既に相応に低下しており、根強いインフレ圧力が確認される場合には一時的に相場が巻き返す展開には注意を要する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/9~1/13)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2089 高値 1.2249 終値 1.2234

(対円) 安値 155.65 高値 161.24 終値 156.37



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6900 ~ 0.7050 88.50 ~ 90.20 円

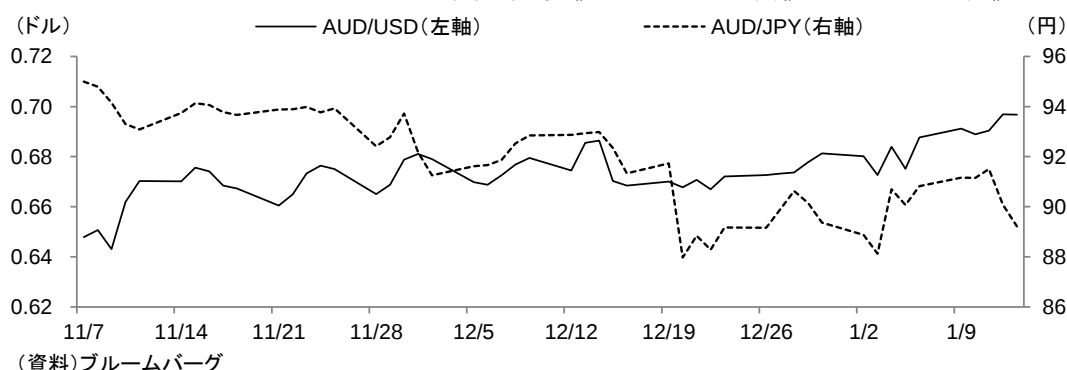
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.68台後半から0.69台後半まで上昇。9日、前週の米12月雇用統計を受けた株高・米ドル安の流れを引き継ぎ、じりじりと上昇。中国不動産開発業界の借り入れ規制緩和に関する報道を背景に人民元高が更に進行していることも豪ドルを支え、0.69台半ばまで上昇。10日、特段材料ない中じりじりと下落。パウエルFRB議長はスウェーデン中銀主催のフォーラムで講演したが、米金融政策の方向性に関する具体的な言及は無く、安心感から米株に買いが入った。豪ドルは週安値0.6860まで下落していたが、終盤にかけて0.68台後半まで買い戻された。11日、豪11月小売売上高、豪11月消費者物価指数(CPI)どちらも予想以上に強い結果となったことで買い優勢となり、0.69台前半まで上昇したが勢いに欠け、すぐに反落。その後は方向感なく0.69を挟みもみ合い。12日、豪11月貿易収支は予想外に拡大し132億ドルの黒字を計上したが(予想113億ドル、10月実績127億ドル)、相場への影響は限定的であった。注目された米12月CPIは全項目で事前予想通りの結果となり、前月比で2年半超ぶりにマイナスに転じた。インフレが持続的な低下軌道にあるとの認識から、FRBによる利上げ積極姿勢の緩和観測が広がり、米ドルは売りで反応。豪ドルは0.69台後半まで急騰した後、小幅売り戻された。13日、方向感ない中0.69台半ばをはさみもみあい。米1月ミシガン大学消費者消費者マインド(速報)の1年先インフレ期待が市場予想を下回ったことを受けて米株価が上げ幅を拡大すると、豪ドルも支えられて0.6970近辺で引けた。

今週の豪ドルは底堅い値動きを予想する。今週は18日(水)の日銀金融政策決定会合に市場の注目が集まっているほか、17日(火)中国10~12月期GDP、19日(木)豪12月雇用統計などが発表される。豪12月雇用統計では前月に引き続き底堅い結果が予想されており、市場予想では失業率は3.4%となっている。中国によるコロナ規制の撤廃、豪州産石炭の一部輸入再開等、豪州経済にとって明るいニュースが相次いでおり、米利上げ減速観測の強まりとともに足許の豪ドルを支えている。17日(火)中国10~12月期GDPでは更なる景気下振れを示す数字が予想され、年初来上値を追っている人民元は一旦売り戻される可能性があるとする。「慎重な楽観ムード」を背景としたリスク資産の上昇とともに底堅い値動きをしている豪ドルだが、中国の動向や米決算の結果次第でこの流れに修正が入る可能性もあるため、ヘッドラインには十分注意を払いたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/9~1/13)の値動き: (対ドル) 安値 0.6860 高値 0.6994 終値 0.6975
(対円) 安値 88.66 高値 91.82 終値 89.22



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。